

校長室便り

12-1号



～ご覧ください 子ども達の懸命な姿 素敵な笑顔～



「士別れて三日なれば刮目してこれを見よ」は 大人の責任と覚悟を問う言葉

この言葉は、かの有名な三国志に出てくるそうです。「人は三日も会わなければ随分と成長しているもので、目をこすってしっかり見なければならない」という意味らしいのですが、私はこの言葉を私たち大人が子ども達に相対する時の責任と覚悟を問うものであると考えています。

コロナ禍で縮小や中止となったものもありますが、牛島小学校では2学期もたくさんの学習や行事を実施しました。子ども達は、こうした様々な体験を通して本当にたくましく成長を遂げたと思います。できるようになったこと、レベルが上がったことなどが、それぞれの子どもにたくさんあります。それはご家庭でも十分実感していただけているものと思います。

ところが私は、この言葉には別の意味が隠されていると考えています。「3日程度の期間では、刮目でもしないとその成長に気付くことは難しい」という意味です。2学期という長い期間を通して見た時には容易に実感できたとしても、この言葉にあるように3日間、あるいは1日という短い期間での子ども達の変化や成長を我々大人は、見逃してはいないでしょうか？子ども達は日々成長しています。私たち大人がまさに刮目して日々の成長に気付き、相応しい言葉をかけることができれば、子ども達のやる気を増加させ、成長に拍車をかけることができるはずです。

本校は現在、学校をあげて子ども達を指導する時に前向きな言葉掛けをすることで望ましい行動を促す「ポジティブ行動支援」に取り組んでいます。既にご家庭でも実践されている保護者の方もいらっしゃるとは思いますが、学校と一緒にこの「ポジティブ行動支援」的な考え方で子育てに取り組んでみてはいかがでしょうか？自分のやったことの成果を素早く見つけ評価してくれる大人がいると、子ども達はやりがいを感じ、素直でのびのびとした気持ちで努力することができると思います。保護者の皆さん、年末年始にはお子様と過ごす時間も増えることと思います。どうか改めてお子さんを刮目してみてください。そして子どもが成長したことの喜びを当人に伝えてさらなる成長へと導いてください。